

Affiliated with the International Association  
THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO HACHIOJI  
Chartered October 30, 1994



〒192-0906  
東京都 八王子市北野町 575-22  
並木 真 TEL : 090-4314-3044  
Fax: 042-649-5276  
E-mail: m.namiki1020heartbeat@gmail.com

2024年3月

The Service Club of The YMCA

第345号

## 東京八王子ワイズメンズクラブ

|      |            |                                             |
|------|------------|---------------------------------------------|
| 会 長  | 並木 真       | 国際会長 ウルリック・ラウリドセン (Denmark) 主題「輝かそう、あなたの光を」 |
| 副会長  | 久保田 貞視     | スローガン「良いコミュニケーションは、全ての協力関係の基礎である」           |
| 書 記  | 小口 多津子     | アジア太平洋地域会長 利根川 恵子 (川越) 主題「変革のための光となろう」      |
| 会 計  | 長谷川あや子     | スローガン「親睦を通して、輝き、力を得よう」                      |
| 直前会長 | 花輪 宗命      | 東日本区理事 山田 公平 (宇都宮) 主題：「未来のために今、学びと気づきを！     |
| 担当主事 | 菅野 牧夫      | 未来のために、自信を育み、真の喜びに出会う！」                     |
| ブリテン | 山本英次 大久保重子 | スローガン「ユースアクションをワイズの主要な活動の一つに」               |
|      |            | あずさ部部長 森本 俊子 (長野) 主題「よい結果をもたらす心の安定と考える力を」   |
|      |            | ～面白く感じることを再発見しよう～                           |
|      |            | 八王子クラブ会長 並木 真 主題「リアルな活動とつながりを！出来ることをやる！」    |

### 2024年3月例会プログラム

#### 3月第一例会(チャリティーコンサート)

日時: 2024年3月9日(土)

場所: 八王子市北野市民センター8階ホール

出席者(敬称略): メンバー: 並木真会長、花輪、佐藤、菅野、大久保、長谷川、稲葉、望月、山本、久保田、久保田メネ、並木(信)、並木メネ、小口、茂木、茂木メネ(16名)

ひつじくも: OB・宮内蒼也、小宮夏光(文1)、高橋佑太(経1)、木村萌映(経2)、松崎梨(総合3) 折原美結(総合2) 6名

出演者: 奈良原 繭里(ソプラノ)、笹川哲史(バイオリン)、中山博之(ピアノ)

講演者: 山口誠史(地雷廃絶日本キャンペーン監事)

ビジター: 藤田智・メネ(多摩スマイル)、本川悦子(東京西)、上松寛茂(埼玉)

プログラム: 第一部、アーニー・ローリー、私を泣かせてください、愛の挨拶(バイオリン)、ほか

第二部、サンタルチア、ある晴れた日に、歌の翼に、シェルブールの雨傘(ピアノ)ほか

みんなで歌おう(会場とクラブメンバーと一緒に)、アンコール、花束贈呈

観客総数: 296名。チケット売り上げ、ご寄付、会場募金。・収益 567,182円

収益から支出を差し引いて、支援先の地雷廃絶日本キャンペーンの JCB とウクライナ避難者支援東京 YMCA 同盟へ寄付をいたしました。

## 巻頭言

### 第22回 チャリティーコンサートの成功を祝して！ 実行委員長 花輪宗命

2024年2月号ブリテンの巻頭言でもご案内した通り、東京八王子ワイズメンズクラブの看板 CS(地域奉仕)事業であるチャリティーコンサートが、去る3月9日(土)、八王子市北野市民センター8階ホールで開かれました。八王子出身の人気ソプラノ歌手: 奈良原繭里さんが、パートナーである笹川哲史さんが奏でるバイオリンと中山博之さんが奏でるピアノの調べと共に、世界平和への祈りを込めて、皆様に懐かしい歌曲と名曲のソロ演奏をお届けするコンサートでした。

20回以上の伝統を誇るチャリティーコンサートですが、コロナ禍のあおりを受けて、このところ毎年開催中止に追い込まれてきたため、今回は、実に5年ぶりのコンサートとなりました。5年のブランクの後でしたので、果たしてどれくらいのお客様がいらしてくださるか読めず、大いに気をもみましたが、



しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対する愛を示されました。それで今や、私たちはキリストの血によって義とされたのですから、キリストによって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。

### 今月の聖句(2024年3月)

しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対する愛を示されました。それで今や、私たちはキリストの血によって義とされたのですから、キリストによって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。

(新約聖書・ローマの信徒への手紙 5:8-9)

「案ずるより生むが易し」の諺さながらに、用意した椅子では足りなくなる程の沢山の方々にお越し頂き、ホールいっぱい笑顔が溢れる楽しいコンサートとなりました。

お客様の中には、地元のファンの方々のほか、休会中の旧会員や、あずさ部のワイズメンズクラブの皆様が大勢応援に来てくださり、志を共有する仲間たちの温かい友情に感激ひとしおでした。お客様やワイズの仲間の応援としては、大口の寄付者が数人おられたほか、会場の募金箱にも、私達の期待を大きく上回るご寄付が寄せられました。

手前味噌を並べるようで恐縮ですが、感激ものだったこととしては、主催者側の八王子クラブの関係者の活躍にも言及させて頂きたいと思います。会場のスタッフとしては、クラブのメンバーのほか、中央大学Yのひつじぐもの学生さんやYMCAの幹部経験者を含む有能で奉仕の精神溢れる人たちが加わってくれ、それぞれが自発的に担当する役割に取り組んでくれたので、巧まずして絶妙のチームワークが働き、コンサート全体が滞りなく盛り上がりました。

当日は、前日までの荒れた天候から一変して、目も覚めるような好天に恵まれ、私達の努力を、主が温かく見守ってくれているのを感じさせました。

近年、私達を取り巻く世界(環境)は、パンデミックの蔓延、地震や火山の噴火を含む大規模自然災害の多発、ロシアのウクライナ侵攻、ガザ・イスラエル戦争など、気が滅入る事件が頻発していますが、私達は、お互いに助け合い、支えあってこの災禍を乗り越えていきたいものです。

ワイズメンの活動は、たとえさやかではあっても、この歩みを着実に進める効果があると思います。5年ぶりのチャリティコンサートが、大成功に終えられたのは、改めて言うまでもなく、ワイズメンズクラブの皆様とコンサートの趣旨に賛同くださったお客様のお蔭ですが、その陰には、主の温かい眼差しがあったことも銘記したいと思います。 **出演者・メンバー・ひつじぐも・宮内君**



## 会長挨拶

### 第22回チャリティコンサート開催にあたって

東京八王子ワイズメンズクラブ会長 並木 真

東京八王子ワイズメンズクラブの会長を務めております「並木 真」でございます。クラブを代表して一言ご挨拶を申し上げます。

ご来場の皆様、本日は、東京八王子ワイズメンズクラブのチャリティコンサートにお運び頂き、誠にありがとうございます。今日は、チャリティの支援対象の一つ



であります、地雷廃絶日本キャンペーンで監事をお務めの「山口様」にもお越しただいています。後程ご挨拶頂きますが、あらか

じめ、感謝申し上げます。

私ども、東京八王子ワイズメンズクラブは、世界最大の青少年運動であります、YMCAの働きを支援することを主な目的とする、国際ワイズメンズクラブ協会に属するボランティアクラブです。とても小さなグループですが、定期的な例会をもち、親睦を図りながら、青少年の成長に寄り添い、地域や国際的な課題に関心を寄せる活動を心がけています。クラブはいつも開かれ、新しい仲間の増えることを願っています。すみません。宣伝が入ってしまいました。



さて、私どものチャリティコンサートは、回を重ねて22回目となります

が、ここ何年かは、

コロナウイルスのために、企画をしては中止、ということ余儀なくされてきました。今日、ここようやく皆様のご協力を得て、開催の運びとなりましたこと、たいへん嬉しく思っております。



本日のコンサートは、「奈良原繭里(ならはら まゆり)ソプラノコンサート =弦(げん)の調べ(しらべ)と共に = 」として、「ソプラノの奈良原繭里(ならはら まゆり)さん」、「ヴァイオリンの笹川哲史(ささがわ さとし)さん」、「ピアノの中山博之(なかやま ひろゆき)さん」のご出演、ご協力をいただいで開催いたします。

ご出演いただく皆様に感謝申し上げます。とりわけ、地元、八王子市ご出身の奈良原さんには、ご出演のご予定をいただきながら、幾度もの中止を繰り返したにも関わらず、その都度、ご理解・ご容赦を頂き、ここに開催の運びとなりました。あらためて感謝を申し上げます。

さて、今回のチャリティーコンサートの目的に、地雷廃絶日本キャンペーンの「対人地雷・クラスター爆弾廃絶運動の支援」、日本YMCA同盟の「ウクライナ戦争避難者支援活動の支援」を掲げ、益金は全額この両者に寄付することとしています。

非人道的な兵器である地雷・クラスター爆弾の使用、2年を経て、なお出口の見えないロシアによるウクライナ戦争、ガザにおける街と人間の破壊など、人間による非人道的営為があります。そして、そこに、命を奪われ、傷つき、悲惨な生活を余儀なくされ、支援を必要としている人々がいます。私たちは、この事実に関わらせ、心に関わらせ、寄り添ってきたいと思ひます。

今日のチャリティーコンサートが、私達の志をよとして、プロフェッショナルで有りながら、ボランティアとしての目線と意識でご出演下さる演奏者がおられてこそ可能なプログラムで有ることを、心にとどめたいと思ひます。あらためて、ご出演の皆様にご感謝申し上げたいと思ひます。

皆様には、ご出演の方々の、美しい歌声、楽器の調べに、心豊かなひと時を共に過ごして頂ければ幸いです。会場が一つになり、共に声を合わせて歌うプログラムも用意されています。

終わりに、ご来場のすべての皆様が、この場をご自分のものとして、今日のチャリティーコンサートの時をお過ごし下さるよう願って、開会のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



## JCBL 地雷廃絶日本キャンペーン

監事 山口誠史氏 挨拶

ただいまご紹介いただきました、JCBL 地雷廃絶日本キャンペーン監事の山口誠史と申します。

本日は東京八王子ワイズメンズクラブ様のチャリティーコンサートにお招きいただき、大変ありがとうございます。私からは、対人地雷及びクラスター爆弾の現状について報告させていただきます。

数字もありますので、原稿を読ませていただきます。対人地雷禁止条約つまりオタワ条約が



発行したのは1999年3月11日ですので、この3月で25年、四半世紀が経ちました。

現在この条約に加盟している国は日本を含め164カ国であり、非加盟の33カ国のうち昨年の地雷使用が確認されたのはロシアとミャンマー、また本来加盟国であるウクライナの使用も確認されております。

昨年度の対人地雷の犠牲者数は4710名、民間人の割合が85%であり、ほとんどが民間人で、そのうちの49%は子どもです。

最も多く犠牲者を出したのはシリアで834名、続いてウクライナ606名です。

犠牲者は依然として増え続けており、大きな課題で、特に地方において犠牲者の支援というのが非常に重要になってきております。

先ほどもお話しされましたように、2022年2月24日、ロシアによる突然の侵攻によって始まったウクライナ戦争。これまではロシア、ウクライナ等が対人地雷を使用しております。

条約に加盟しているウクライナが使用というのは本来条約違反になります。

確かにロシア軍の侵略から国土を守る、人々を守るとはいえ、対人地雷というのは、戦争が終わっても長く国土に残り、そして無差別に人を傷つける兵器です。

そのうえ、将来、戦争が終わってウクライナが復興を目指すこの時に復興の妨げにもなる。そういう意味でもJCBLが加盟する国際的なキャンペーンICBLは、ロシ

ア、ウクライナ等に、対人地雷の使用に対して非難をしております。

条約の加盟、未加盟に関わらず使わないということが大事です。

被災者の声の代弁者たる私たち市民社会 NGO は、いかなる状況においてもクラスター爆弾という無差別で残虐な兵器使用などは許されないと声を大きく上げていく必要があります。

米国が既にクラスター爆弾をウクライナに移転しており、これに対して少なくとも 21 か国の各国首脳や政府高官が米国に対して懸念を表明している。

私ども地雷廃絶日本キャンペーン、JCBL は世界の平和を実現するために地雷及びクラスター爆弾の廃絶を訴えている NGO です。

その一方で、アジアの被害国であるミャンマーでも被害者支援を行っております。

ミャンマーでは 2021 年 2 月 1 日に発生したクーデターから 3 年が経ちました。

国軍による市民住民への迫害、虐殺、戦闘が続いておりますが、地方において特に激化しております。

JCBL は戦争を逃れて山間部に避難している国内避難民に対する緊急人道支援ということで医療支援を中心にを行っています。

事態の長期化が懸念される中、今年度は被災者の経済的自立を念頭に田園作りや家畜市場、小規模店舗の開業など、そういった支援も開始したいと思っております。

東京八王子ワイズメンズクラブ様には 22 年にわたってこのコンサートが始まった時からずっと JCBL の活動を支援していただいております。

改めてこの長年に亘るご支援に感謝するとともに、引き続き世界の平和の実現と被災者の支援のための活動に皆様のご協力をいただければ、と思います。

立役者：並木信一・菅野牧夫・花輪宗命



## 特別投稿

### 中央大学 ひつじぐも コンサートお手伝い日記

#### チャリティコンサートに駆けつけて

中央大学 YMCA・ひつじぐも OB 宮内蒼也  
ふと開いた facebook で「第 22 回八王子ワイズメンズクラブ チャリティコンサート」のチラシを見つけた時、即座にメールを開いたことを覚えています。2023 年 10 月か



ら再度戦闘状態となったパレスチナへ問題意識を感じ、学 Y 時代の仲間と何かできないかと考えていた時、ふと私の頭にはかつてお世話になった八王子ワイズメンズクラブで開催されているチャリティコンサートが浮かびました。「私のことはもう忘れられてしまっているかもしれない。」それでも勉強させて

いただきたいと思い勢いのままにメールを送った私を、八王子クラブの皆様はとても暖かく迎えてくださいました。「メールを送ってよかった。」心から安心をしました。

チャリティコンサートの開催目的は JCBL の行うミャンマー支援への援助と、ウクライナ戦争の避難民への支援でした。どのような社会問題もそうであるように、短期間での解決は難しく、継続的な支援が求められるものです。コンサートのプログラムを読み、第 1 回チャリティコンサートから一貫して JCBL の地雷廃絶キャンペーンへの支援を続けてきたことを知りました。「継続的な支援」とはまさにこういうことを言うのだと痛感すると同時に、八王子クラブの皆様がこれまで連綿とつないできた支援の歴史に感激いたしました。コンサートの準備作業の中では、コンサート開催までの具体的なお話を聞かせていただくこともでき、一日を通じて本当に多くのことを学ばせていただきました。

一方コンサートの中で歌われた歌は、来場者の方々にとって懐かし、思い入れのある曲が多かったとお聞



きました。観客の方々の反応もとても良く、観客席の裏手にある機械室から観ていた私も、会場

の温かい雰囲気を強く感じることができました。私にとっては初めての曲も多い中、アンコールで歌われた「夜



明けの歌」の一節が心に残りました。

「夜明けの歌よ 私の心に 思い出させる ふるさとの空」  
ふるさとはまさに十人十色、人によって多くの故郷の景色があるものです。高層ビルに囲まれたふるさと、田んぼに囲まれ大きな空が広がるふるさと。しかし今世界には、全く違うふるさともあります。地雷が埋められたふるさと、隣国に侵攻されたふるさと、追い出され帰ることのできないふるさと、国際社会に訴え続け、争いの中で勝ち取ったふるさと。世界中の誰しもにとってふるさとは大切な存在です。故郷を巡って武器を取り傷つけあうのではなく、言葉や宗教が違って、たがいの故郷の話をしながらみんなで郷愁の念を分かち合えるような、そんな世界が実現することを願ってやみません。改めて、チャリティコンサートへ参加させていただいたことに感謝をお伝えしたいと思います。本当にありがとうございました。

## ボランティアサークル ひつじも コンサートのお手伝いの感想

### ・松崎梨紗(総合政策学部2年)

今回初めてチャリティコンサートのボランティアに参加させていただきました。このコンサートが対人地雷廃絶や爆弾廃絶、ウクライナ避難者支援につながることに興味を持ち、少しでもその手助けをしたいと思い参加を決めました。活動は、会場の設営準備や受付対応、出演者の方へさまざまなことを行わせていただきました。東京八王子ワイズメンズクラブの皆様も優しく接してくださり、大変お世話になりました。一日だけのボランティア体験でしたが、多くのことを学べ、とても貴重な経験となりました。

### ・木村萌映(経済学部2年)

チャリティコンサートに参加するのは今回が初めてでした。コンサートが大盛況だったこともあってか、お手伝いの作業が私には少しハードに感じましたが、その分とても充実した1日になりました。プロの方の生演奏や歌声が素晴らしかったことはもちろん、唱歌などを会場にいる全員で歌うコーナーでは、観客の方々の声が一つになったとても綺麗なハーモニーがホールの外まで聞こえてきて、胸を打たれました。

今回のコンサートのように、音楽によって心が一つになるイベントが続いてほしいと思うとともに、私もまたお手伝いなどの形で携わっていければと感じました。

### ・小宮夏光(文学部1年)

今回3月9日のチャリティコンサートの運営のボランティアに参加して、イベントを運営することの大変さ、そしてイベント運営を通して沢山の人が関わっていることを学ぶ良い機会となりました。私は受付でお客様にプログラムとアンケートを書いていただくための筆記用具を配布するという業務を行いました。迅速にお客様をホールの中へご案内しながら、アンケートのご記入をお願いすることは大変でしたが、やりがいを感じることができました。このようなご案内や配布などの僅かな運営作業は、イベントを成せる上で欠かせない仕事であるということを再確認することができました。今後もイベント運営に関するボランティアに挑戦してみたいです。

### ・高橋佑太(経済学部1年)

チャリティコンサートのボランティア活動の体験は私にとって非常に意義深いものでした。ボランティアとして、会場の準備や案内、お手伝いをする中で、一人ひとりの貢献がコンサートに大きな影響を生み出していると感じたので、責任を持って役割を全うする事が出来ました。また、その場で出会った人々との交流も私にとってかけがえのないもののように感じます。このような活動を通じて、自分の力が社会に何かしら

の影響を与えられることを実感し、将来も積極的に社会貢献活動に参加していきたいと思いました。

## 花束贈呈 by ひつじも



## プログラム

### ＜第一部＞

- ・ 私を泣かせてください  
ヘンデル 作曲
- ・ アーニー・ローリー  
スコットランド民謡



中山博之 編曲

- ・ さくら横丁 詩：加藤周一  
中田喜直 作曲
  - ・ ゆく春 詩：小野芳照  
中田喜直 作曲
  - ・ 愛の挨拶 エルガー作曲 (ヴァイオリンソロ)
- ＜世界の愛唱歌/中山博之編曲より＞
- ・ エーデルワイズ
  - ・ カッチーニのアヴェ・マリア

### ＜第二部＞

- ・ サンタルチア ナポリ民謡  
中山 博之編曲



- ・ 春の童謡・唱歌メドレー  
～みんなで歌おう～  
「春の小川、朧月夜、花、ふる里」
- ・ オペラ「蝶々夫人」より「ある晴れた日に」  
プッチーニ作曲
- ・ シェルブールの雨傘  
ルグラン 作曲 (ピアノソロ)

- ・ 歌の翼に  
メンデルスゾーン 作曲 中山博之 編曲
- ・ オペラ「ルサルカ」より「月に寄せる歌」  
ドヴォルザーク 作曲 中山博之 編曲





## クラブの募金活動

### 能登半島地震被災者支援街頭募金のご報告

並木信一

これまで、東京八王子ワイズメンズクラブでは、クラブ主催のチャリティコンサートの益金使途に連動させて、コンサートに先立つ1週間前に街頭募金を実施することを慣例としてきました。今年のチャリティコンサートの益



金使途は「ウクライナ戦争による避難者支援及び対人地雷、クラスター爆弾廃絶運動支援」でした。

しかし、今年の街頭募金は、クラブ例会における協議の結果、元日の夕刻に発生した能登半島地震被災者の支援のための街頭募金とすることになりました。

正月気分を一気に吹き飛ばした地震でしたが、ニュースが流れた後もしばらくは、後に徐々に明らかになってきたような被害の甚大さを誰も想像はしなかったでしょう。厳寒の中、日常のすべて、衣食住、生業、学び舎を、更には家族の生命すら奪われた多くの被災者の



方々のことを、自分事として思うとき、誰もがいたたまれない思いになります。

街頭募金は、3月2日



(土)午後1時にJR八王子駅北口の路上に集合の後、同地点で行いました。東京YMCAから提供いただいた、募金箱を持つ人、被災現地の写真パネルを持つ人、協力者にYMCAの募金チラシを手渡す人等、分担をして、口々に通行人に募金への協力を呼びかけました。

子どもに募金のお金を託す親子連れ、連れ立って募金箱にお金を入れる高校生のグループ、車いすをよ



せてきて募金に応ずる人、通り過ぎた後、引き返してきて募金箱にお金を入れる人、「このたびの地震被災者のための街頭募金にはどこの募金にも協力することに



しているのよ」、といひながら募金箱にお金を入れる女性、「できれば私も現地にいきたくらい、代わりに気持ちを届けてね」、と頼みながら募金箱にお金を入れる人、実に様々な人が募金に協力を

してくれました。

託された貴い募金は人々の心とともに被災者に届けなければ、との思いを強くしながら、時間を追って寒くなる午後3時頃、募金活動を終了しました。

街頭募金への参加者は、東京多摩みなみクラブの綿引康司さん、中央大学ひつじくもの小宮夏光さん、高橋佑太さん、藤原直輝さん、永井龍之介さん、折原美結さん、八王子クラブの久保田貞視さん、久保田佐和子さん、大久保重子さん、稲葉恵子さん、小口多津子さん、長谷川あや子さん、花輪宗命さん、山本英次さん、並木 真さん、並木信一の16名でした。

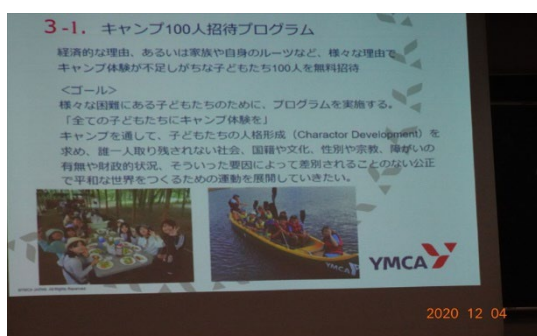
街頭募金で集められた金額は、後刻の追加寄付を加えて 79,293 円でした。この金額に、先の1・2月例会のスマイルの金額 26,050 円を加えた 105,343 円を、東京八王子ワイズメンズクラブから、ワイズメンズクラブ東京日本区を通じて、YMCA が行う能登半島地震被災者支援活動のために献金いたしました。

## 山中湖センター100周年記念事業について

元八王子クラブ事業主査 嶋山 徹郎氏 2月卓話

### 講演内容の要約

- 山中湖センターは1923年に開設され、日本で初めて定住型の組織キャンプが行われたキャンプ場である。
- 100周年を機に、キャンプ場の施設やプログラムを拡充し、子どもたちの成長に貢献したいという目標を掲げている。
- 具体的には、以下の3つのプロジェクトを実施する。
  - キャンプ100人招待プログラム:** 経済的な理由などでキャンプ体験が不足しがちな子どもたちを100人招待する。
  - プログラム施設の新設:** クライミングウォール、アーチェリーレンジ、PA(プロジェクトアドベンチャー)プログラムなどを導入する。
  - 宿泊施設のリノベーション:** キヤビンにトイレを新設し、宿泊棟の壁や天井を塗り直すなど、快適な宿泊環境を整える。



### 質疑応答

- 一般の人が山中湖センターを利用する場合の費用: 1泊2食で7000円から8000円
- 学生の利用状況: 大学や小学校の利用が多い

- 山中湖センターの意義: 日本のYMCAの教育思想の原点であり、民主的教育、民主的人格の育成に貢献してきた

### その他

- 山中湖センターは、今後も子どもたちが様々な経験を通して成長できる場を提供していく。
- 100周年記念事業への支援を呼びかける。

### 山中湖センター100周年記念事業の概要

#### 1. 事業の目的

山中湖センターは、1923年に開設されて以来、日本で



初めて定住型の組織キャンプが行われたキャンプ場として、多くの人々に親しまれてきました。2023年に100周年を迎えるにあたり、未来の子どもたちのために、より良いキャンプ場へと変えていくための事業が計画されています。

#### 2. 事業内容

この事業は、大きく3つのプロジェクトから構成されています。

- キャンプ100人招待プログラム:** 経済的な理由などでキャンプ体験が不足しがちな子どもたち100人を無料で招待し、キャンプの楽しさを体験してもらう。
- プログラム施設の新設:** クライミングウォール、アーチェリーレンジ、プロジェクトアドベンチャーの施設を新設し、子どもたちの冒険心を育むプログラムを提供する。
- 宿泊施設のリノベーション:** 宿泊棟のトイレを全室に設置し、快適な宿泊環境を提供する。

#### 3. 事業の意義

この事業は、単にキャンプ場の施設を改修するだけでなく、子どもたちの成長を促すための環境づくりを目指す



しています。キャンプを通して、子どもたちは自然と触れ合い、仲間と協力し、自分自身に挑戦することで、様々な価値観を学び、人間性を育んでいくことができます。

#### 4. 募金のお願い

この事業は、皆様からのご寄付によって実現します。ご支援いただいた方は、山中湖センターの未来を築くための重要な役割を担うことになります。

#### 5. 今後の予定

山中湖センターは、今後も子どもたちの成長を支援するための様々な事業を展開していく予定です。

鳩山氏の卓話は、AIにより「要約」されたものであります。

## わくわくビレッジ便り

### 館長:菅野牧夫

先日のチャリティーコンサートは座席が埋まるほどのお客様に来ていただきうれしかったですね。司会という大役を仰せつかって緊張の連続でしたが何とか乗り越えられました。皆様ありがとうございました。

3月に入り、寒い日もありましたが少しずつ春の空気に代わってきました。わくわくビレッジの桜ももうすぐ開花します。春の訪れが楽しみでもあり、大好きな冬が終わってしまう寂しさもあり複雑な気持ちです。

わくわくビレッジのプログラムスタッフは子どもたちを楽しくさせることについてはプロフェッショナルであると思っていますが、自然の知識については、まだまだであります。来年度に向けて高尾の森自然学校という環境教育を進めている団体と協働して、それぞれの良さを融合したプログラムのパッケージを作る相談が始まりました。小学校や幼稚園のお客様にセールスしていく予定です。

す。お客様のニーズにうまくマッチングすることを願っています。

来年度をもってわくわくビレッジの東京都との契約が満了することはお話をしていますが、来年度夏ごろには、次の契約を更新するために東京都に提案書を提出しなければなりません。東京都が提案書を認めてくれて、晴れて契約更新となります。ですので、この提案書というものがとても重要なものになります。提案書作成のためにコンサルタント会社を入れて一緒に考えていきます。2月入り京王ユースプラザより、コンサルタント会社決定の連絡があり、1回目の打ち合わせが実施されました。私たちは秋から他の施設の視察を行い、わくわくビレッジで取り入れていけるものを考えてきましたが、それらを踏まえてこれからコンサル会社と話を煮詰めていきます。来年は色々忙しい一年になりそうです。



高尾わくわくビレッジの「桃?」「梅?」



## 東京YMCA 近況報告

担当主事 菅野牧夫

1. 輪島市より要請を受け、能登半島地震の復興支援として、東京YMCAは1月25日より輪島市町野町にある避難所（町野小学校・東陽中学校）の運営サポートを行っている。常駐スタッフ1名の他、交替でスタッフ2名ずつを派遣し、避難所の様々な業務にあたっている。2月末までを予定していたが、3月末まで延長することになった。
2. 「能登半島地震緊急支援募金」は2月20日現在、6,528,388円が寄せられている。また、各地域で計8回の街頭募金を実施され、計830,935円が集まった。募金を用いて電子レンジ、電気ポット、トースター、掃除機、清掃用品、スリッパ、下着などの支援物資を避難所に届けた他、募金は全国のYMCAが協力して展開する支援活動のために引き続き用いていく。
3. 2月4日、「山中湖センター100周年記念チャリティーボウリング大会」が、ボウリングサロン・ザ プリンスパークタワー東京で開催され、合わせて21チーム、70名の参加があった。山中湖センター100周年募金委員が中心となり準備と運営を担い、良い交流の機会ともなった。益金は、山中湖センター100周年募金として用いる。なお、山中湖センター100周年募金は3月末を期限に受付を継続している。
4. 2月17日、会員部主催による「ソシアスフォーラム 2023」が佐渡加奈子氏（認定NPO法人カタリバ アダチベース拠点責任者／東京YMCA評議員）を講師に、山手センター及びオンラインで開催され、会員、リーダーOB OG、職員他、100名を超える参加があった。困難を抱える10代の子どもの事例やカタリバの取り組みの紹介、YMCAとして何ができるのかを考える機会になった。また当日会場では、能登半島地震被災者支援として、石川県の物産品を販売した。
5. 今後の主な行事予定
  - ・「東日本地区YMCA役員研修会」4月27日（オンライン）
  - ・「第21回会員大会」5月25日（山手センター）

## 今日の聖句に寄せて（2024年3月）

私の母は本を読むのが好きな人でした。先ごろ、母が愛読していた渡辺和子さんの本を手にとってみたところ、葉とは別に、ティッシュが挟んでありました。

ティッシュには血がついていました。手芸が好きなので、針を刺した指にこじんだ血をぬぐったティッシュをそのまま葉代わりにしてしまったのか、今では謎のままです。

ティッシュがはさまれていたページは「デウスのごたいせつ」という見出しの箇所です。4百数十年前に渡来した宣教師たちが厚い言葉の壁がある中で「神の愛」を伝えようとして訳した言葉が「デウスのごたいせつ」であったことを述べ、「愛」を「ごたいせつ」と表現したことを説明しています。「あなたがた一人ひとり、性別、年齢、身分、財産と関わりなく、神の“ごたいせつ”なのです。その証拠に、キリストは、あなたたちのために十字架上で死んだではありませんか。聖書を読んでごらん下さい。いかに、小さな者、貧しい者、罪人、いわゆる“出来の悪い者”が神の愛の対象であったかが書かれています」。宣教師はこのように説明していたことを説明する箇所です。

そして、渡辺さんのこのページの最後は、「一人の人に生き甲斐を与えるほど、大きな愛はなく、人から生き甲斐を奪うほど残酷な行為はない、と知るべきであろう」と結ばれています。この部分には母の傍線が引かれていました。

イエス・キリストは、十字架上で血を流され、その血によって人間の罪を贖い、神様と私たち人間とを和解させました。そして、3日目に死人のうちから甦り、天に昇られました。

今年のイースターは3月31日です。

並木 信一





## 2月第一例会(TOF 例会)・報告

日時:2024年2月24日土 18:00-20:00 会場:北野事務所 担当:A班

出席者(敬称略):長谷川、菅野、佐藤、稲葉、小口、久保田、久保田佐和子、並木(真)、望月、花輪、並木信一、並木雍子、大久保、山本、(ひつじくも) 森脇啓心、ゲスト:卓話者(鳩山徹郎氏)、酢屋氏 以上17名  
プログラム進行:司会、佐藤メ( A班)

・卓話「山中湖センター100周年～夢と希望を抱いて」  
鳩山徹郎氏(東京YMCA ウェルネス事業部、  
野外教育センターマネージメントディレクター  
1923年～2023年、山中湖センターが100年を迎えた。100周年にあたっての新規のプロジェクトは、①クライングウールの新設(仲間の応援や信頼があったの挑戦する意志)、②PA(プロジェクターアドベンチャーで、チームビルディングを形成、アーチェリーレンジの新設)、③宿泊施設のリノベーション(すべての宿泊棟にトイレ施設を)。クラウドファンディングにはこれまでに354人、合計925万5000円の支援を頂きましたが、記念募金は3月末まで受付中。

### ・諸報告

① 街頭募金(能登半島地震被災者支援)並木(信)  
説明:3月2日土、PM1時集合、  
開始:1:30。終了:3:30。場所、JR八王子駅北口  
階段下、警察許可書、のぼり旗、募金箱10個  
チラシを用意。参加者:ほぼクラブ全員、  
ひつじくもから5名応援。

② チャリティーコンサート:花輪実行委員長から  
説明:3月9日土、当日はセンターに10時集合、  
プログラムを並木信、歌詞カード久保田メ、  
アンケート花輪メ作成中。舞台横断幕作成・  
YMCAに依頼を菅野メ、当日受付人数を増やすこと、チケットの売れ行き(長谷川メ)現在、報告240枚、ほかに予約券、当日券、寄付等報告。イス席を増やす。ひつじくも6名参加。

③中大ひつじくもの追い出しコンパ(会長):3月9日  
火20時～ZOOMの参加

④ サンライズクラブ設立35周年記念  
会:3月23日11:30京橋、クラブから  
4名参加。

⑤3月23日土は、第二例会

・ハッピーバースデー 久保田佐和子さん(21日)、  
スマイル:14,000円 (以上)小口

## ひつじくも便り

### 初めてのチャリティーコンサート

総合政策学部 2年 折原美結

こんにちは。次期副委員長兼ワイズ係を務めます、中央大学総合政策学部2年の折原美結です。3月9日(土)に行われましたチャリティーコンサートは、新型コロナウイルスによってここ数年は開催できなかったため、私にとって初めてのチャリティーコンサートの機会でした。前日の朝は雪が降っていたので、天気を心配していましたが、遠くにある富士山の山頂が白くなっているのがよく分かるほど、雲の少ない晴天でした。ひつじくもからは私を含め5人が参加し、今回のボランティア活動を通して、さらに仲を深めることができました。

午前中は準備とリハーサルで、学生の演奏や舞台のリハーサルを拝見する機会は今までにもありましたが、プロの方のリハーサルを見る機会はなかなかないので、貴重な機会でした。ぎりぎりまで歌手の方とヴァイオリニストの方とピアニストの方がより良いコンサートになるように曲の調整をされていたのが印象的でした。午後1時30分から開場予定でしたが、午後1時には数十名の方が既に来場してくださり、このコンサートをとても楽しみにしていることがうかがえました。コンサートでは、私が知っている曲も多く、奈良原さんの歌声と笹川さんのヴァイオリンの演奏、中山さんのピアノの演奏という豪華なコンサートを拝見できて、とても嬉しく、贅沢な時間になりました。曲の中でも特に「私を泣かせてください」は、私も高校生のときに学校で何度か歌ったことがあり、思い入れが強く、好きな曲だったので、奈良原さんの綺麗で力のある歌声でこの曲を聴くことができ、さらにこの曲を好きになりました。

対人地雷・クラスター爆弾廃絶&ウクライナ避難者支援のために開かれた今回のチャリティーコンサートには、様々な世代の方が来てくださり、また多くの方が募金に協力してくださりました。このことを通して、これらの問題に対する関心は世代を超えて高いということを実感する機会になりました。今回のチャリティーコンサートは多くの方に喜んでいただけたようで、とても嬉しく、ボランティア活動を通して今回のコンサートに少しでも関わることができて良かったです。また、今回のボランティア活動を通して、ひつじくもは八王子ワイズメンズクラブの皆様とさらに距離を縮めることができたと思います。新型コロナウイルスによって開催できない年が続きましたが、今年を境に来年もまた開かれることをとても楽しみにしております。

## 先月の例会ポイント（2月）

|        |      |        |          |
|--------|------|--------|----------|
| 在籍     | 12名  | 切手     | 0g 計 45g |
| メン     | 12名  | 現金     | 0円       |
| メイキャップ | 0名   | 累計     | 0円       |
| 出席率    | 100% | スマイル   | 14000円   |
| メネット   | 2名   | 累計     | 103,680円 |
| ゲスト    | 2名   | オークション | 0円       |
| ビジター   | 0名   | 累計     | 0円       |
| ひつじぐも  | 1名   |        |          |

## 今月お誕生の方

菅野牧夫さん 15日

長谷川あや子さん 19日

並木雍子さん 19日

Y's company オペレッタシリーズ第8回公演

Trendy drama ver. 2024 4月6日(土) 17:30 (17:00 開場)

Lovecomedy ver. 2024 4月7日(日) 13:00 (12:30 開場)

E.Kálmán  
Die Csárdásfürstin  
喜歌劇《チャルダッシュ侯爵夫人》

一般 ¥5,000 全自由席  
18歳以下 ¥3,000  
※一般の方1名につき、小中学生1名まで無料  
未就学児入場不可

ムーブ町屋 ムーブホール  
荒川区荒川 7-50-9 センターまちや3F  
東京メトロ千代田線町屋駅0番出口より徒歩1分  
京成線 町屋駅 / 都電町屋駅より徒歩1分

お問い合わせ・ご予約  
03-6885-9719

Y's company  
ホームページ




- ①4/6 (土) 1730～オペレッタ「チャルダッシュ侯爵夫人」主演のシルヴァ役で出演。会場ムーブ町屋チケット¥5000（日本語上演、踊りと台詞付き音楽劇です）
- ②5/11 (土) 1400～「ファンタスティック」オペラガラコンサート、名歌手の方々と共演。カンツォーネ、イタリアオペラから名曲を演奏致します。

会場：コンサーツラボ（早稲田奉仕園）チケット¥4000

お申込は080-3425-2193（奈良原）まで

お電話、ショートメールにて